

株主の皆様へ

第54期 報 告 書

平成29年4月1日～平成30年3月31日



立山ロープウェイ

立山黒部貫光株式会社



代表取締役社長 佐伯 博

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第54期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当期のわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善傾向を背景に、緩やかな回復基調で推移しましたが、その一方で、米国新政権の政策や北朝鮮問題等の地政学的リスク、さらには国際金融市場の変動等、依然として先行き不透明な状態が続きました。

観光業界におきましては、訪日旅行では、航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加等が寄与し、特に韓国人旅客が大幅に増える等、平成29年の訪日旅客総数が過去最高の2,869万人に達した一方、国内旅行も堅調に推移いたしました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、4月10日に富山側の立山～弥陀ヶ原間の営業を再開し、立山～信濃大町間の全線では、これまでで最も早い4月15日に営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

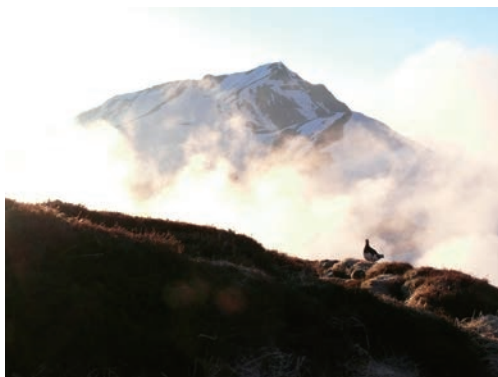
営業の推移を概観いたしますと、「雪の大谷」の高さが20mに迫るという話題性もあり、4月の入り込み客数が過去最高の121千人を記録し、5・6月も前年度を上回る好調な滑り出しとなりましたが、7・8月は、梅雨明けの遅れや度重なる台風と長雨の影響から前年度割れとなりました。さらに、前年度の落ち込みからの挽回を期待した紅葉期においても、前年度並みの入り込み客数に留まりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計929千人（対前年101%、7千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが463千人（対前年97%）、大町入り込みが466千人（対前年104%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客が、個人化傾向に対応するため、新たにインターネッ

ト限定の平日割WEBきっぷの販売を始める等、販売促進に努めましたが、7月以降の天候不順により、特に首都圏からの個人客が伸び悩む等、総じて低調に推移した結果、国内旅客全体の入り込み人員が666千人（対前年98%、14千人減）となりました。

一方、訪日旅客は、JRの訪日外国人客向け企画切符「立山黒部オプショナルチケット」等の利用増加により個人客が順調に伸び、団体客も韓国が大幅な伸びとなる等、好調に推移し、訪日旅客全体では、過去最高の263千人（対前年109%、21千人増）となりました。



平成30年度の営業概況につきましては、5月末日現在、好調であった前年度並に推移いたしております。夏から秋にかけても多くのお客様にお越しいただけるよう、引き続き販売・宣伝活動に注力してまいりたいと存じます。

富山県では、「立山黒部」世界ブランド化推進会議において、選ばれ続ける観光地域づくり推進のための検討が進められております。本格的な人口減少社会が到来した現在において、交流人口の拡大は地域活性化に欠くことの出来ない重要な要素であり、立山黒部の今後の取り組みが、観光業界のみならず、地域全体に大きく波及し影響を与えるものと考えております。

当社におきましても、「世界に類を見ない山岳リゾートエリア」実現に向けた中期経営計画を策定し、その中で、「運輸システム更新」「室堂ターミナル整備」「次世代乗り物更新」の3つの実行委員会を立ち上げ、検討を重ねているところでございます。立山黒部アルペンルートは、2021年に全線開業50周年を迎えますが、これから佐伯宗義初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、次の50年も多くの皆様に支持されるよう、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

決算概要 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

【単体】

損益概要

(単位:百万円)

	平成 29年度	前期差	平成 28年度
営業収益	4,435	55	4,380
営業費	4,421	154	4,267
営業利益	14	△99	113
経常利益	35	△102	136
当期純利益	12	△83	95

資産・負債概要

(単位:百万円)

	平成 29年度	前期差	平成 28年度
資産の部	11,507	122	11,385
流動資産	1,637	256	1,381
固定資産	9,869	△134	10,003
負債の部	4,605	334	4,271
流動負債	1,217	133	1,084
固定負債	3,387	201	3,187
純資産の部	6,901	△212	7,113

当期の営業収益は、44億35百万円（対前年101%）となりました。一方、営業費は、経営全般にわたる効率化に努めましたが、人件費、除雪費、減価償却費が増加し、44億21百万円（対前年104%）となり、営業利益は、14百万円となりました。これに、営業外収益56百万円、営業外費用35百万円を加減した経常利益は35百万円となりました。さらに受入補助金の特別利益4百万円および特別損失、さらに法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、12百万円の当期純利益を計上することとなりました。

【連結】 連結子会社：立山貫光ターミナル㈱、立山黒部サービス㈱

損益概要

(単位:百万円)

	平成 29年度	前期差	平成 28年度
営業収益	7,001	83	6,918
営業費	6,959	202	6,757
営業利益	41	△119	160
経常利益	65	△122	186
親会社株主に 帰属する利益	27	△100	127

資産・負債概要

(単位:百万円)

	平成 29年度	前期差	平成 28年度
資産の部	12,840	96	12,744
流動資産	2,471	231	2,239
固定資産	10,368	△136	10,504
負債の部	5,546	305	5,242
流動負債	1,443	181	1,263
固定負債	4,103	124	3,978
純資産の部	7,293	△209	7,502

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

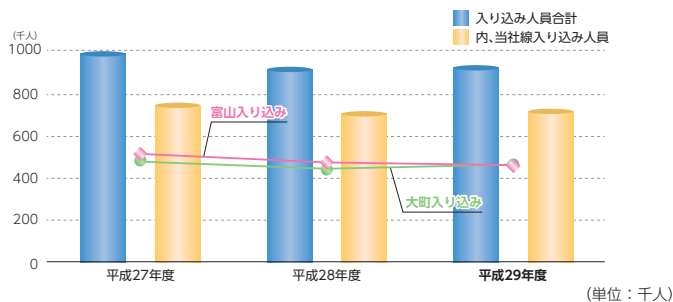
	立山貫光ターミナル㈱	立山黒部サービス㈱
営業収益	2,779	275
営業費	2,775	270
営業利益	4	5
経常利益	13	6
当期純利益	1	4

※立山貫光ターミナル㈱は、ホテル立山、弥陀ヶ原ホテル、宇奈月国際ホテルを経営しております。

※立山黒部サービス㈱は本体事業を補完し、食品加工、手荷物回送等の事業を行っております。

営業概況

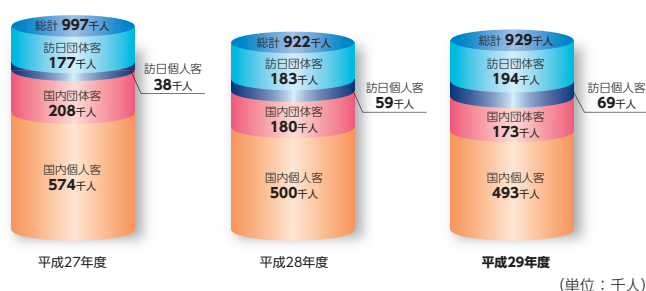
■入り込み人員



	平成27年度	平成28年度	平成29年度
富山入り込み	517	476	463
大町入り込み	480	446	466
入り込み人員合計	997	922	929
当社線入り込み人員	749	708	720

平成29年度の入り込み人員は、92万9千人（対前年101%、7千人増）で、内訳では、富山入り込みが46万3千人（対前年97%）、大町入り込みが46万6千人（対前年104%）となりました。

■客種別入り込み人員



	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入り込み人員合計	997	922	929
訪日団体客	177	183	194
訪日個人客	38	59	69
国内団体客	208	180	173
国内個人客	574	500	493

訪日客は、JRと連携した海外客用きっぷの利用が堅調に増加したうえ、団体客も韓国が大幅に増加したため、過去最高の26万3千人となりました。

詳細の情報はホームページにてご確認ください。

立山黒部貫光株式会社ホームページ <https://tkk.alpen-route.co.jp>

中期経営計画

〈中期経営計画について〉

1971年（昭和46年）に全線開業した立山黒部アルペンルートは、2021年に全線開業50周年を迎えます。今後の立山黒部アルペンルートには、国際観光地としてのブランド価値を高め、より高いレベルでの快適さと質の高さが求められます。その実現に向け、中期経営計画を策定し、着実に進めてまいります。

【立山黒部のビジョン】

2041年の立山黒部アルペンルート70周年に向けて「世界に類を見ない山岳リゾートエリア」へ

【中期経営計画の位置づけ】

2018年度～2022年度（2021年は全線開業50周年）



新たな立山黒部に向けての基盤整備とステップアップへ

1. 顧客満足を伴う収益の向上 2. 事業基盤の強化 3. 魅力向上への実現化

2023年度～2027年度



新たな立山黒部の実現化へのジャンプへ

1. 運輸システムの発展 2. 次世代乗り物実現 3. 室堂ターミナル整備

将来（～2041年に向けて）

世界に類を見ない山岳リゾートエリアへ

【基本方針】

利益を確実に生み出すために事業基盤を強化し、将来に向けた世界水準のクオリティー提供を推進する。

①世界に類を見ない山岳リゾートエリアとして世界水準のクオリティーに高める。

日本が観光先進国を目指す中、世界屈指の山岳リゾートエリアと呼ぶに相応しい世界水準のサービスクオリティーの提供を重点目標といたします。環境への配慮と安全・安心を基盤としながらも、魅力創出に繋がる設備投資を行い、その新たな立山黒部のバリュー（提供価値）をお客様に楽しんでいただくことで、リピーターを増やし、ブランド価値を高めてまいります。

②継続的な利益の確保を目指す。

観光先進国に向けたエリアの中心的存在として、入り込み客数100万人を目標とし、訪日客増加や個人客の質的变化等、市場に対応した事業を進めてまいります。また、立山三社が一丸となって売上の拡大に努め、より効率的な業務運営を徹底することにより、継続的な配当を可能にする利益計上企業へと体質改善を図ってまいります。

【重点戦略（2018～2022）】

1. 顧客満足を伴う収益の向上

①立山黒部アルペンルートを核とした立山黒部エリアにおける体験価値・滞在価値の向上に向けて、滞在時間の長時間化

- ・滞在プログラムプラットフォームの整備
- ・大観峰展望テラス、黒部平展望テラスの整備

②マーケティングに基づく顧客情報の収集・分析、およびリピーターの創生

- ・立山黒部エリアの顧客管理充実
- ・（国内）新たな客層に対するプロモーション推進
- ・（海外）各々の国、地域に適したセールス・プロモーション推進

③インターネット利用へのシフト加速

- ・WEBきっぷ自社商品の販売強化と利便性強化
- ・オフィシャルサイト、SNS活用促進

④イールドマネジメントの促進による収益性向上

- ・室堂～黒部湖間の利用客拡大

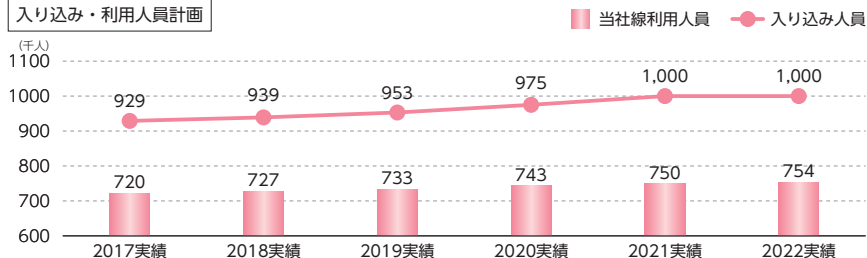
2. 事業基盤の強化

- ①高コスト体質の改善
- ②効率的な事業運営
- ③遊休資産の活用

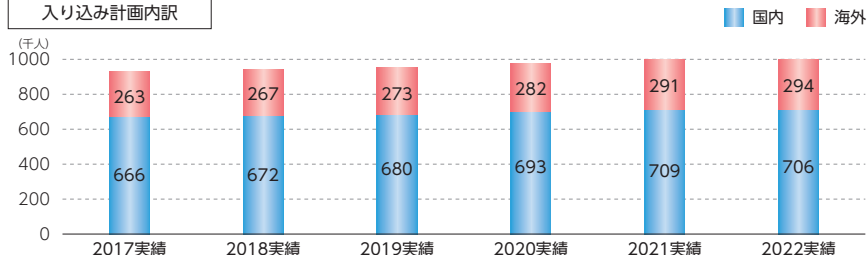
3. 魅力向上への実現化

- ①運輸システムの更新
- ②次世代乗り物の更新計画
- ③室堂ターミナル整備計画

入り込み・利用人員計画



入り込み計画内訳



「黒部平駅屋上に展望テラスが誕生」

来たる7月14日、黒部平駅屋上展望台に「黒部平パノラマテラス」を設置いたします。ウッドデッキにテーブル1台とイス4脚のセットを3組置き、立山連峰東壁から後立山連峰へ360度続く雄大なパノラマの眺望を楽しむことができます。

平成24年に誕生した大観峰駅の「大観峰雲上テラス」に続き、2か所目の絶景テラスとなります。



黒部平パノラマテラス(イメージ)

「立山・雪の大谷ウォーク300万人」を突破

春の人気イベント「立山・雪の大谷ウォーク」の来場者数が、本年4月30日に通算300万人を突破いたしました。

当イベントは平成6年の来場者数約1,000人からスタートし、今年で25年目を迎えましたが、今では日本の春を象徴する風景として認識され、国内外から約30万人が訪れる一大イベントとして定着いたしました。



雪の大谷ウォーク

「黒部平駅 黒部ケーブルカーホームに可動式ホーム柵」を新設

昨年11月、黒部平駅黒部ケーブルカーの階段ホームに、転落防止のための「可動式ホーム柵」を設置いたしました。これまで階段式のホーム柵の設置は大変難しいとされていましたが、メーカー側の協力により国内初の設置ケースとなりました。今後も引き続き、お客様の安全性向上を図るため、継続的な改善に取り組んでまいります。



黒部平駅 可動式ホーム柵

その他、近年は国内外からの個人客が増えており、自然散策などを楽しめる「エコツアー」を拡充し、より細やかなニーズに対応できるよう努めてまいります。今年3月には、四季の魅力を盛り込んだ滞在型ツアーの情報を発信・紹介するためのポータルサイト（エコツアーガイドサイト「TATECO（タテコ）」）を開設いたしました。また、外国人誘客を強化するため、新たにフランス語やドイツ語など4カ国語のホームページの運用を開始いたしました。欧州の言語への対応は初めてで、外国人向けホームページは既存の英語や韓国語などを合わせて9カ国となりました。多言語対応を進めることにより、海外への発信力を高め、新たな市場拡大に繋げてまいります。

会社概要

(平成30年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町1丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、
売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 8,973,228株（自己株式318,440株を除く）
- 株主数 1,436名
- 役員（平成30年6月28日現在）

代表取締役社長	佐伯 博
専務取締役	永崎 泰雄（営業推進部長）
常務取締役	新森 雅夫（総務部長）
常務取締役	中川 修（経営企画室長）
常務取締役	見角 要（運輸事業部長）
社外取締役	石井 隆一
社外取締役	永原 功
社外取締役	庵 栄伸
社外取締役	月山 將
社外取締役	辻川 徹
社外取締役	森 雅志
社外取締役	牛越 徹
社外取締役	丹波 重和
取締役	石野 一美（立山貫光ターミナル(株)常務取締役ホテル営業部長）
取締役	高江 均（技術環境部長）
取締役	中村 直幸（経理部長）
常勤監査役	川嶋 芳明
社外監査役	舟橋 貴之
社外監査役	中田 邦彦

株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 株主優待券 2月末日
 - 定時株主総会の議決権 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- 同取次場所
日本証券代行株式会社 支店
三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先
〒168-8620
東京都杉並区和泉2-8-4
日本証券代行株式会社 代理人部
0120-707-843（フリーダイヤル）

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル 宿泊 割引券
	種 類	通用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂	2枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂	3枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂 立 山～黒部湖	1枚 2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	4枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	6枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	8枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	10枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	20枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券 (片 道) 優待乗車証 (記名式)	立 山～黒部湖	30枚 1枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

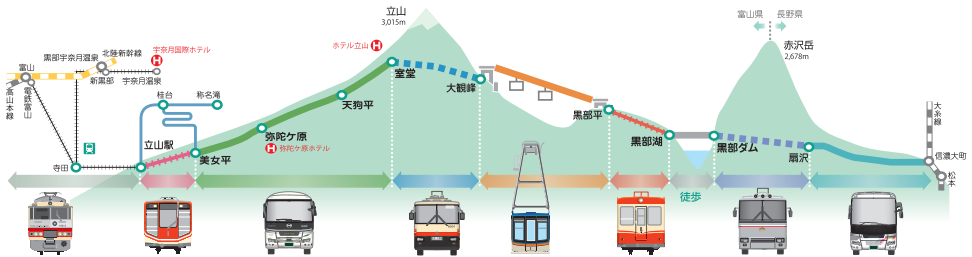
～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、左記日本証券代行㈱ 代理人部までお問い合わせください。



立山黒部アルペンルートのご案内



乗物	電車 電鉄富山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル トロリーバス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル トロリーバス	路線バス
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.8km	6.1km (16分)	18km (40分)
運賃	片道	1,200円	720円	1,710円	2,160円	1,300円	860円	1,540円	1,360円
	往復	2,400円	1,290円	3,020円	3,240円	1,940円	1,300円	2,570円	2,500円

営業推進部

〒930-0849 富山県富山市稲荷園町2-3-4
国内営業センター 海外営業センター WEB・PRセンター
☎(076) 432-2819 FAX (076) 442-3431

東日本営業所

〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル1階
☎(03) 3262-7028 FAX (03) 3265-5285

東海営業所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-14-15 スギビル5階
☎(052) 241-2268 FAX (052) 241-2275

西日本営業所

〒550-0004 大阪府大阪市西区堀本町1-9-15 近畿富山会館4階
☎(06) 6445-0359 FAX (06) 6445-0398

大町営業所

〒398-0002 長野県大町市大町3-2-2
☎(0261) 22-0198 FAX (0261) 23-2967

グループのホテル



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峰寺室堂
☎(076) 463-3345 FAX (076) 463-3348



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峰寺弥陀ヶ原
☎(076) 442-2222 FAX (076) 442-2242



宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26
☎(0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

● 立山黒部アルペンルートオフィシャルサイト
<https://www.alpen-route.com>

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社
〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36
☎(076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185

(自然環境保護のため、環境にやさしい「水なし印刷」
「植物性大豆油インキ」を使用しております。)

